

救急基金だより

1分1秒を争う、いのちのために
救急基金

- 救急基金のすみ
- 救急基金の募集
・ 大田地区消防組合消防本部
・ 天草消防組合消防本部
- 市民の声
- 平成10年度救急基金会計の決算
- 平成10年度救急基金会計の予算



救急基金は、災害予防の普及など救急の発展のために活用されます。

財団法人 救急振興財団

救急基金の歩み

応急手当の普及へ向けて

救急救命士の養成を目的に、平成3年5月に発足した救急振興財団は、この7年間に3,736名の救急救命士を誕生させるなど、救急体制の充実に相応の成果をあげてまいりました。

救急救命士の高度な応急処置により、心肺停止傷病者の救命効果も向上してきましたが、より一層の向上を図るためには、救急車が到着するまでの一般市民による応急手当が重要であり、また、これを習得したいという住民のニーズも高まっています。

すなわち、救急車が到着するまでの数分間の処置が生死を分けるといっても過言ではないのです。

そこで、救急振興財団では、平成4年度から皆様から寄せられた寄附金を、救急基

金として積み立て、その運用益を活用し応急手当の普及など救急の振興を目的とした事業を行っています。

事業の概要

【平成5～8年度】

住民の要請に応じて消防機関が派遣する応急手当指導員を養成するための講習会の開催

【平成9年度】

寄附金募集用のポスター及び救急基金箱の作製

【平成10年度】

消防機関が、住民向けに行う応急手当講習会で使用する資機材の交付

寄附金募集事例紹介

太田地区消防組合消防本部

太田地区消防組合は、群馬県の南東に位置し、自動車産業を中心に発展を続ける群馬県太田市及び同市に利根川を背にして隣接する大泉町、新田町、尾島町の1市3町で構成されている。

管内面積は174km²で約23万5千人の人口を擁している。

消防本部は管内のほぼ中央に位置し、平成10年3月に防災の拠点として最新の通信指令施設を導入し移転新築されたものである。

太田地区消防組合の寄附金募集は、地元の太田地区救急病院協議会との連携により行われている。救急基金箱は、構成団体である1市3町のほか、総合太田病院、本島総合病院、堀江病院、太田福島総合病院及び城山病院の5箇所の救急病院に設置し、毎年9月の救急医療週間に消防音楽隊が各病院を表敬訪問し、寄附金を受領している。

寄附金の大半がこの救急医療週間を中心に募集されるとのこと。太田地区救急病院協議会の多大の協力があったことである。さらにこの期間には、救急に関する広報として各救急病院及び消防署等に懸垂幕やポスターを掲出するほか、構成団体の広報誌を通じての普及啓発にも努めている。

また、応急手当の講習会については、一般応急手当講習、普通救命講習等を年間約100回（受講人数約3,300人）実施し、住民の要請に応じている。年々増加する救急出場件数や救急事案の多様化の中で、限られた資機材を利用しての応急手当の普及啓発の努力には頭が下がる思いである。



寄附金募集事例紹介

天草消防組合消防本部

熊本県の南海に位置する天草諸島は、温暖な気候に恵まれ、古くから農林漁業が盛んであり、天草四郎ゆかりの観光地としても知られている。

天草消防組合は、同諸島全域を所管する広域消防組合として、消防本部所在の本渡市及び県下最大の漁港を有する牛深市他13町で構成され、同諸島内16万住民の生命と財産を守っている。平成4年、同9年には同消防組合の消防士が、全国救助法大会の水上の部において第1位に輝くなど頼もしい限りである。

さて、寄附金募集は、消防本部正面入口に設置された救急基金箱により行われている。募集用ポスターも目立つ位置に掲示されており、来客者にも分かり易い配置となっている。

また、応急手当の普及については、住民に対する普通救命講習等を年間約160回（受講人数約4,900人）実施しているほか、講習会における救急隊員の指導技術向上のための大会を独自に開催するなど熱心な取り組みがなされている。

ところで、熊本県内の各消防本部では



ユニークな募集方法として「救急基金チャリティーゴルフコンペ」が行われている。このコンペは、年に一度、持ち回りで休日に開催しており、平成8年に開催地として寄附金募集に携わった天草消防本部によると、救急基金に理解のある方は誰でも参加することができ、チャリティーホールでワンオンできなかった場合には500円以上の寄附を願うというものである。ちなみに、当日は上位入賞者を始め多数の参加者から善意をお寄せいただいた由、紙面を借りて感謝したい。

市民の声

救急法の知識の重要さ実感

小坂元ひろみ 34才 主婦（福岡市）

先日、近くの公民館で救急法の講習があり、三歳の娘を連れて行った。託児もでき、三時間たっぷりとお話が聞けた。

ビデオで、気道確保や人工呼吸など一連の流れを教えてもらい、実技。

等身大の人形を使っての練習で、人形に声をかけて意識のないのを確認、救急車を呼ぶ。そして気道を確保し、人工呼吸するが口から息がもれていると胸が膨らまない。やり直してしっかり自分の口で人形の口をふさぐとうまくいった。

次が心臓マッサージ。手を置く場所が難しい。人形でこうだから、これが人間と思うととても怖い。

人の命を救う救急法。いざという時、勇気を持って踏み出すためにも知識は必要と思う。

平成10年8月7日読売新聞より

